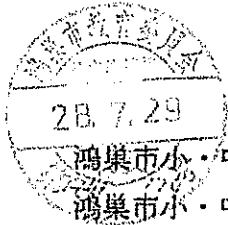


第5回鴻巣市立小・中学校適正配置等審議会資料

- (1) 要望書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1～3
- (2) 「鴻巣市立小・中学校の適正規模
及び適正配置について」意見集約・・・・ 4～7



2016年7月29日

鴻巣市小・中学校適正配置等審議会会長 矢部保雄 様
鴻巣市小・中学校適正配置等審議会 各審議員 様

鴻巣の教育を考える会 代表世話人 福重 玉緒

「鴻巣市立小・中学校適正規模および適正配置について」の要望書

平素より子どもたちへの教育のために尽力されている貴職に敬意を表します。
以下について要望いたします。

昨年8月8日に「鴻巣市立小・中学校適正配置について」の諮問が鴻巣市教育委員会から貴審議会に行われました。その中で、「具体的な方策」として1、川里地区において屈巣小学校・共和小学校・広田小学校を「小中一貫教育」として統廃合する。2、笠原小学校・常光小学校・鴻巣中央小学校を合併して1つの小学校にする。3、小谷小学校・大芦小学校・吹上小学校を合併して1つの小学校にするというような方策が図示されました。私たちは、小学校はその地域の市民にとってもっとも貴重な公共施設・公共資産であると考えています。また多くが100年以上の歴史を持つ地域の拠点でもあります。「諮問書」の中に小規模化のメリットとデメリットが上げられています。しかしこの諮問書は、小規模化のメリットはデメリットに比べ量的に半分以下しか書かれていません。逆に大規模化は、メリットがデメリットの2倍以上の量で書かれています。しかも、小規模化のメリットとして子どもたちが近くの学校に短時間で、徒歩で通える、大規模化のデメリットとして通学距離が長くなり徒歩で通えなくなる可能性があるなどの非常に重要な点が書かれていません。また大規模化により多様な考えに触れ、切磋琢磨するどころか、人間関係が希薄化し、子どもたちが孤立する危険があることも無視されています。統廃合後、子どもたちが荒れたり、不登校が増えたり、いじめが増えたりする例があることも報告されています。こうしたことも書かれていません。また、「対等平等」のはずが、「吸収・合併」となり、地域の不満や対立のもとになったという例も上げられていません。また「諮問書」は、論理的でなく、実証されたものでないものが多いです。こうした点で「諮問書」は、審議するうえで十分な情報が示されているとは思えません。

一方先進諸国（アメリカを除く）では、初等学校の規模は、100人から200人が一般的です。ところが日本の学校規模の平均は、322人です。学級規模もOECD諸国の平均が21.6人です。これに対して日本は28.0人で、韓国・チリに続いて3番目に多い状況です。2010年の日本の国内総生産（GDP）に占める教育機関への公的支出の割合は前年と同じ3.6%で、加盟国で比較可能な30カ国中最下位です。ちなみに、OECD加盟国の平均が5.4%です。むしろ先進国の大勢は、学校規模と学級規模の小規模化の方向に進んでいます。先進国は子どものために多くの予算を注ぎ込んで、小規模化を進め、ゆきとどいた教育を行っています。こうした点を踏まえて以下の4点を要望します。

- 1、答申を出す前に、保護者・地域住民に対する説明会と質問・意見を聞く会を開催してください。
※関係するすべての小学校区において、笠原地区と同様またはそれ以上、保護者・地域住民への説明会と質問・意見を聞く会を開催してください。学校評議員や一部のPTA役員に対しての説明会と質問・意見を聞く会では、あまりにも不十分ではないでしょうか。
※保護者だけでなく地域住民を対象とする説明会が必要な理由は、小学校は地域の公有施設・資産であり、過去に保護者であったもの、あるいは未来に保護者となるものにとっても重要なものであるからです。学校がなくなることによって、その地域がさびれ、過疎化が進行する危険もあります。

- 2、小学校は、教育施設であるだけでなく、地域の交流の場や災害時の避難所としての役割もあります。その点も十分検討したうえでの答申をお願いします。
※小学校やPTAの開催する様々な行事（ほたる鑑賞会、花フェスタ等）は、地域の交流の場として大きなはたらきをしています。
※耐震対策や給食室の新設など多額の資金が投入されており、地域の災害拠点としての活用も期待されていることも配慮してください。

- 3、中間答申を出して、その後最終答申を出さずに終えてしまうことがあります。地域の学校がなくなるという重要な問題において決してそのようなことがないようにしてください。しっかりと住民の意見を聞いたうえで最終答申を出すようにお願いします。
※明確な理由付けもなく、不十分な説明と図示されただけの諮問に対し、保護者・地域住民に納得のいく答申を出すことはむずかしいと思いますが、だからこそ多くの質問や意見を聞きしっかりと地域の実情や保護者・児童生徒の状況を十分把握した上で答申を出すようにしてください。

- 4、審議員は、答申を出す前に該当校の視察を行ってください。
※子ども達が生き生きと活動している姿にふれたり、現場で指導する教職員の意見にも耳を傾けたりしてください。

以上の要望書への回答を、要望書を受け取られてから1か月以内にご回答ください。

問い合わせ先

鴻巣の教育を考える会

代表世話人 福重 玉緒

TEL 048-514-9439

2017年4月26日

鴻巣市小・中学校適正配置等審議会 会長矢部保雄様

鴻巣の教育を考える会 代表世話人 福重 玉緒

「鴻巣市立小・中学校適正規模および適正配置について」の要望書について審議
と回答についてのお願い

平素より子どもたちへの教育のために尽力されている貴職に敬意を表します。

「鴻巣の教育を考える会」は、昨年7月29日に「鴻巣市立小・中学校適正規模および適正配置について」の要望書を提出しました。この要望書に対して、昨年の3月に開催された第3回「鴻巣市立小・中学校適正配置等審議会」において、矢部会長から『「鴻巣の教育を考える会と」からの要望書について、みなさんと審議していきたいと思います。』と提起しました。それに対して、大原委員から「提案ですが、要望書を読んで理解する時間がほしいので、次回の審議会で協議するのが良い」との発言があり、矢部会長は、「次回の審議会で協議すると発言がありました。他の委員さんいかがでしょうか。」と委員にはかりました。各委員は「異議なし」と答え、矢部会長は、「それでは、要望書の内容を理解し、次回協議することにいたします。」と、審議会の最後で述べております。

(会議録より)

つまり第3回の審議会で、第4回の審議会において、私たちが提出した要望書について審議することが決定されていたのです。今年の2月25日に開かれた第4回審議会を、私たちはどのような話し合いがなされるか、期待を持って傍聴しました。ところが、要望書に関する発言は一切ありませんでした。議長の矢部会長も要望書に関する話し合いを最後まで提起しませんでした。これには私たちも非常に驚き、失望しました。審議会の決定が、次回の話し合いに全く生かされていないのです。第3回の審議会の決定は何だったのでしょうか。

ぜひとも、次回第5回審議会では、「鴻巣市立小・中学校適正規模および適正配置について」の要望書について、決定通り必ず審議し、誠実な回答を要望します。

「鴻巣市立小・中学校適正配置等審議会」の意見等のまとめ（素案）

（1）通学区域の見直し

① 宮地一丁目の通学区域

平成28年5月17日の中間答申のとおりである。

（宮地一丁目の通学区域については、鴻巣北小から鴻巣東小へ変更することを検討する必要がある。その際、一定の経過措置期間を定めて見直すとともに、子どもたちの安全・安心を第一に考え、さらに地域とのつながりを考慮すべきである。）

② JR 高崎線西側区域（栄町）

（主な意見）

- ・4つの通学路の案があるが、3つの案が校長先生から危険であると否定されていて、判断できる材料がない。
- ・子どもたちにとって一番考えなくてはならないのが交通関係である。今後予定されている道路によって、子どもたちの通う通学路にも影響があると考えられる。
- ・子どもが安全に通学できるのが第一である。環境が変わるといのが分かっている以上は、それがあ程度見えてきた段階で考えるべきである
- ・例えば上尾道路ができるということで、人口の変化が考えられるが、そうってから考えるのでは遅いと思うので方向性だけは示したほうが良い。

（2）小中一貫教育について

川里地域（屈巢小、共和小、広田小）

（主な意見）

- ・川里地域の小学校の児童数は、屈巢小及び広田小は増加、共和小だけ減少している。減少しているとはいえ、複式学級にもなっていない。
- ・小中連携教育への住民理解は大方得られているが、既設の小学校廃止の併設型小中一貫教育については住民理解を得られていない。
- ・全国的な小中一貫教育の結果が見えていないことや複式学級が見えていないことを考えると、小学校をひとつにして小中一貫校をつくるのは時期尚早である。

- 小規模校にも良いところがある。
- 地域とのつながりを考慮すべきである。
- 合同授業の回数を増やすとか、学年の幅を広げるとかして小中連携を深める必要がある。
- 小学校 6 年間と中学校 3 年間をつなげるということは、学力と人間関係のうえでは大きな意味がある。理想は長い期間を系統立てて子どもに教えられるとすごく良い。
- 子どもたちを育てるには、どうしたら良いのかを前面に出して考えるべきである。
- 人数を考えて小中一貫教育を進めるのか、教育効果の向上のために小中一貫教育を進めていくのかによって違いがある。
- 川里地域においても、それぞれが小さい学校なりにやっている。
- 川里地域の小中連携の取り組みは素晴らしいが、小学校 3 校を一緒にしてしまうというのは、また違うと思う。
- スクールバスなどの問題も多く、将来的にどう進めていくか難しい。
- バスで登校するよりも、子どもが歩いていける範囲に学校を置くことが自然である。
- 子どもの運動能力の低下も問題となっている中、歩くということは良いことだと思う。子どもが自分で通える範囲に学校がある現状を維持するのが良い。

(3) 小学校の適正配置について

① 鴻巣地域（笠原小、常光小、鴻巣中央小）

（主な意見）

- クラス替えが可能な 2 クラス欲しい。
- 2 クラスあればよいことであるが、1 クラスでも子どもたちは適応している。
- 小規模校にも良いところがある。
- 地域とのつながりを考慮すべきである。
- 笠原小と常光小の児童は校外活動で連携している。
- 子どもたちのことを優先して考えてほしい。
- 子どもたちを育てるには、どうしたら良いのかを前面に出して考えるべきである。
- 人を増やしてほしいということが根底にあるので、そこを解決しないと笠原小の適正配置は進まないと思う。
- 笠原小、常光小、鴻巣中央小の 3 校を図面で見ると、笠原小が中心と

なる。

- 笠原小の児童数が平成34年度60名で、単純に一学年10名という数字を見ると、寂しいと思う。
- 常光小の児童数を見ても、120人いるので、そんなに危機感がない。
- 現場の意見を聞くのは大事だと思う。笠原小、常光小、鴻巣中央小の3校で適正配置をどう進めるのかを考えれば良い。
- 「これから子どもが少なくなるけれど、不安や心配することがあるのか。」を聞けば、学校に行かせている親たちから意見が聞けると思う。
- 数字だけ見ると、これだけ児童数が減っていくと適正配置という判断になるが、それ以外のことがある。何をポイントにするか明確にしていけないといけない。
- 人数の多いところへ少人数ではいっていくとき、自分から輪を広げる意識を持って集団へ入っていくようにしていた気がする。
- 建物の維持や先生の質、人数なども含めて、子どもの数が減っていく中で気になるところである。
- 今、大人は何をなすべきか、そういうことを考えていく必要がある。
- すぐさま統廃合すべきではないが、子どもが減ったときに合併していく方向が子どもにとっては良い。
- アンケート結果（笠原小）を見ると、在学している子どもの保護者は比較的今のままが良い、未就学の子どもの保護者は残してほしいという意見よりも、早くどちらかに決めてほしいというような意見が多い。
- アンケート結果にずっと従っていくべきとは思わないので、ある一定の期間をおいて見直す必要がある。
- 小さい規模であっても、子どもをどのように伸ばしていくかが大切であり、複式学級でも仕方がない。
- 市街化調整区域においても6親等以内の方は家を建てることのできるため、人口を増やすためには地元の努力が必要である。
- 時間をかけて、じっくり話し合いを持つことが必要である。
- 審議会委員の任期の2年間で決断するのではなく、先を見据えて、地域の人の声を聞きながら、新しい意見を聞く場を持って、審議会のような会議を進めていくことが望ましい。
- アンケート結果を見て、複式学級になっても学校を残したいなど様々な意見があるのだと思った。
- 後々子どもの数が少なくなってきたときには、こうしたほうがよいのではないかという指針を出すことはできると思う。
- 何人学級にするかなど鴻巣市独自の新たな基準があっても良い。

- ・将来、こういう方法があるというようなある程度の選択肢を示すことに賛成する。
- ・きちんとある程度の指針は示して将来につなげていけるような形でできればと思う。
- ・現在と未来の子どもたちのより良い教育環境を最優先に考えて答申を出したい。
- ・やはりある時期には考え始めなければならない。複式学級になった時がポイントになる。
- ・複式学級が見えてくる5年の間に定期的に、計画的に懇談会等を開催していく必要がある。

② 吹上地域（吹上小、小谷小、大芦小）

（主な意見）

- ・吹上小は、現在18学級の適正規模であり、吹上小学校区域には、新宿土地区画整理事業が進行しており、今後18学級を超えることが見込まれ大規模校となり、他校との統合は難しい状況である。
- ・吹上小、大芦小、小谷小の3校を1つにすると、現状だと30学級くらいになり、鴻巣でも最大級の大規模校になってしまう。そう考えると3つの学校を1つの学校にするのは無理ではないか。
- ・小規模校にも良いところがある。
- ・吹上の中学校区をみると、高崎線で2つの中学校区に分かれているので、将来のことを考えると、吹上地域の小学校区中学校区を見据えて吹上地域全体で時間をかけて見直すのが良い。
- ・地域とのつながりを考慮すべきである。
- ・林間学校において大芦小と小谷小の児童と一緒にキャンプをしており、学校は集団活動教育を考慮している。
- ・子どもたちの自立を手伝うという意味では、ある程度の人数が必要である。
- ・クラス替えが可能な2クラスほしい。
- ・2クラスあればよいことだが、1クラスでも子どもたちは適応している。
- ・子どもたちを育てるには、どうしたら良いのかを前面に出して考えるべきである。
- ・小さい学校から大きい学校へ行っても、子どもたちはたくましく成長しているので、あまり心配しなくてもよい。